

□議員名：大井淳一郎

1 都市計画マスタープランについて

論点	改定に至るまでの過程と今後の見通しについてはどうか。
回答	市民を対象にしたアンケート調査や地域ごとの現況、意向を把握するワークショップを実施した。改定委員会を5回開催し、都市計画審議会で中間報告を行った。こうした過程を経て、パブリックコメントを実施している状況である。11月中には改訂を完了する。

論点	改定プランと現行プランの変更点は何か。
回答	平成21年に策定した現行のプランを概ね継承しているが、地域の現状を踏まえて修正を行っている。主な変更点は、山口東京理科大学周辺の良い居住環境の形成、サッカー場周辺の交流人口の増加、生活利便施設の維持確保などを追加していることである。

論点	改定を踏まえて用途地域をどのように見直していくのか。
回答	計画的に市街化を誘導すべき地域等については、適正かつ合理的な土地利用を図るため新たに用途地域に指定する。他方、都市的土地利用が見込まれない地域については、廃止する。また、用途地域に指定している区域のうち、土地利用の現況や動向等を勘案して適切な用途地域に変更することになる。

論点	山口東京理科大学周辺を商業地域に変更することでショッピングモールなどを建設できるようにしてはどうか。
回答	大学周辺は良い居住環境というイメージを持っている。規制を緩和すると周りの環境悪化ということも懸念されるが、今後の調査結果によるかと思う。

論点	県立おのだサッカー交流公園周辺は工場しか建てられない状況である。集客を図るための施設の必要性が出てきた場合に、それに応じた用途地域に変更すべきではないのか。
回答	交流公園周辺は交流人口の増加を促進するという方針案を作っている。そのための変更が今後必要になってくると思う。

2 スマイルエイジングについて

論点	重点施策に位置づけて全庁体制で進められているとのことだが、現在の進捗状況はどうか。
回答	6月に市長を本部長とした推進本部を設置したところである。本部員に課長級職員や山口東京理科大学の薬学部長にも加わっていただき、連携して協議を重ねている。関連する庁内全ての事業の整理及び課題の共有を行い、課題解決に向けて取り組んでいる。

論点	スマイルエイジングを市民にどのように浸透させていくのか。
回答	プラン的なものをまとめて、市民への見える化、見せる化を図っていく。毎年開催している健康フェスタなどのイベントを通じて周知する。昨年度からは、山口東京理科大学で「健康で長生きのまちづくりフォーラム」を開催しているところである。

論点	子どもたち、次世代に対する取組をどのように考えているのか。
回答	学校教育課や子育て支援課にも部会に入ってもらって、課題や具体的な取組について協議している。

論点	担当課以外の一般職員に対して浸透させていくために、どのような働きかけをしているのか。
回答	自分たちの業務の中にもスマイルエイジングのエッセンスがたくさん含まれていることを浸透させていく必要がある。今後も各部課長の協力をいただきながら、全職員に向けて情報発信していきたい。

3 バス高速輸送システム（BRT）について

論点	現在どのような協議がなされているのか。
回答	本市、宇部市、山口市と JR 西日本を構成団体として勉強会を設置し、持続可能な次世代公共交通システム導入の可能性について情報交換や調査をしている。今年度を目途としてメリットやデメリット、導入に係る費用負担見込など基本的な情報把握を行っている。

論点	地域公共交通施策を進めていく上で BRT 化は必要だと考えているのか。
回答	JR 小野田線や宇部線の廃止が既定事実であるかのような伝えられ方がされているが、現在のところ確定した事項はなく、3市における公共交通の現状や課題の把握等を行っているところである。

論点	BRT 化のメリットやデメリットをどのように認識しているか。
回答	具体的なものは上がってきていないが、利便性の大幅な向上、交通手段の維持しやすさが格段に上がらないとメリットにはならないと思うし、採算性も一緒に考えていかなければならない。

論点	3自治体の市長同士で BRT について話し合いはされたのか。
回答	BRT については、話し合いをしていない。